

須賀川市立小中一貫教育校「稲田学園」令和2年度学園だより

# とう りん 稲 雲

第17号

令和2年12月11日発行

発行者：校長 小貴 崇明



## ○稲田地域ジュニアボランティア養成講座閉講式

11月30日(月)、稲田地域ジュニアボランティア養成講座閉講式を稲田学園で行いました。今年度の活動を振り返った後、稲田公民館の戸田館長さんから「まごごろお届け事業」の一貫としてジュニアボランティアに参加した生徒の活動はすばらしかったとお褒めの言葉をいただきました。また、校長からは、ジュニアボランティアの活動は「心の学び」「地域の学び」「未来の学び」の3つを学ぶことができる。今後もこれらの経験を生かして行ってほしいという話をしました。続いて、参加した生徒から、「地域の高齢者の方のために役立つ活動ができてよかった」「誰かのためになる活動ができてうれしかった」「来年度もボランティアに参加したい」という感想が述べられました。最後に参加した生徒一人一人に、館長さんから記念品が贈呈されました。



## ○一輪車教室～みるみる上達する喜びとともに～



12月2日(水)から3日間に分けて、小学部の全児童を対象とした一輪車教室を実施しています。講師は昨年度に引き続き、日本一輪車協会指導員である新田正恵先生です。各学年の発達段階に応じて、安全な乗り方を徹底した上で、楽しくチャレンジできるよう明るく元気に指導をいただいています。苦勞している児童もいますが、一輪車は一人一台が確保されていますので短

時間で上手に乗れる児童もいました。中には、直線だけでなく回ったり乗りながら友達と手をつないだりできる上級者もいます。



## ○「MY弁当の日」～食の大切さと感謝の気持ちを大切に～

11月27日(金)、「MY弁当の日」を実施しました。各ご家庭では、児童生徒とともに彩りや栄養のバランスを考えて献立を考えたり、当日の朝、実際に本人が全部または一部を調理したりするなど、それぞれ工夫して作ったお弁当を持参していました。

コロナ禍のためグループで食べることはできませんが、お互いの弁当を遠慮がちに鑑賞したり、作る苦勞を振り返りあらためて食事を作っていただくことへ感謝したりする時間となりました。



## ○PTA厚生部主催による給食試食会



12月8日(火)、PTA厚生部主催による給食試食会が行われました。試食会には、学校評議員の皆様、希望された1年生の保護者の皆様、PTA厚生部員の皆様に参加していただきました。

はじめに、稲雲ホールにおいて養護教諭の川崎先生から、本校の児童生徒は全国や県に比べ肥満傾向が高いことや食事以外でも夜更かしなどが肥満の原因になるなど、食育に関する説明をしました。次に、

1年生の給食配膳を参観いただきました。新型コロナウイルス対策を行いながら配膳する児童の様子や、1年生の給食の量などについてご確認いただいた後、稲雲ホールにおいて、子どもたちと同じメニューの給食を試食していただきました。「家でもバランスを考えた食事を考えていきたい」「ちょうどよい味付けでおいしい給食でした」などの感想をいただきました。学校では今後も、コロナ対策を徹底しながら安心・安全でおいしい給食が提供できるよう努めてまいります。



## ○年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動(1/7まで)



12月10日(木)から令和3年1月7日(木)までの29日間、「**年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動**」が実施されています。

毎年、年末年始のこの時期には、夕暮れ時から夜間にかけて交通事故が多発し、特に高齢歩行者が被害者となる重大事故の増加が懸念されます。県民一人一人が交通安全意

識を高め、交通ルールの遵守、正しい交通マナーの実践により交通事故の防止を図ることを目的として運動が展開されます。

スローガンは「**みんながね ルール守れば ほら笑顔**」です。

稲田学園でも、児童生徒に対して、道路を横断する際は無理な横断をしないこと、近くに横断歩道がある場合は自動車に注意しながら必ず横断歩道を渡ること、冬期間は特に自転車の運転には気をつけること等を継続して指導していきます。

### ★ことばのちから(17)「超高齢化社会を支えるのは教育です」

今年、日本の65歳以上の高齢者数は3617万人で、総人口に占める割合は28.7%となり、過去最高の更新が続いているそうです。この状況を「超高齢化社会」といいます。介護など福祉関係に従事する人材確保が叫ばれていますが、単純にそこで働く人間を増やせばよいのでしょうか。老人ホーム等での入居者に対する虐待や殺人など悲惨な事件が後を絶ちません。日本中の幼稚園や小・中学校ではどこでも、毎年のようにお年寄りとの交流や介護現場の職場見学・体験を実施し、お年寄りに寄り添える優しさや愛情を育てる取組を重ねてきました。しかし、残念ながら新型コロナウイルスの影響で、今年度はそれらの体験がほとんどできなくなっているのが現状です。学校は、今できる教育活動の中で、さらに高齢化が進むであろう日本の将来を支える人材を育てていかなければならないという大きな課題を抱えています。

